

民俗資料館だより

第9号 2002. 3. 31 発行 加茂市民俗資料館 電話 0256-52-0089
住所 加茂市大字加茂 229-1 FAX 0256-52-0089

民俗資料館で郷土の再発見を！

加茂市民俗資料館長 田 澤 弘 一

日頃、皆様方には、民俗資料館をご利用頂きまして誠に有り難うございます。

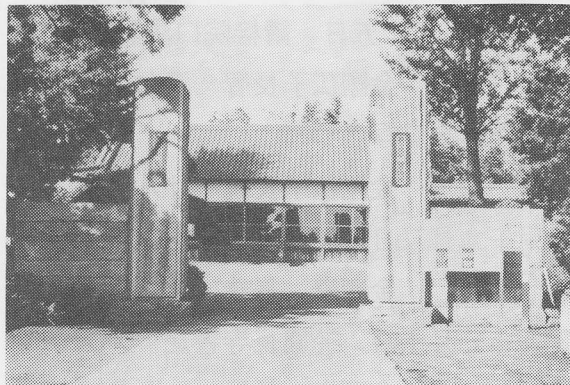
民俗資料館は、自然環境に恵まれた加茂山公園内にあり、見学をして頂くには最適の所に位置しております。

資料館は、市民の皆様から郷土により愛着を抱いて頂きたい、わたしたちの生活様式が目まぐるしく変化して行く中で、使われなくなった日常の生活用具などを保存したい、さらに、歴史的な資料などを後世に伝えたいとの目的で、昭和49年4月に旧下条中学校の建物を転用して開館し、現位置には平成6年9月に移転し、7年余りが経過いたしました。

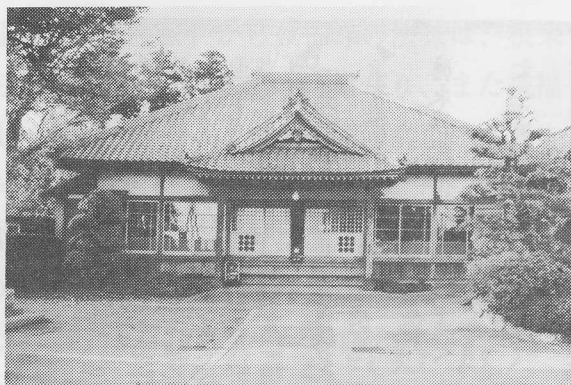
全体の収蔵品は、約20,000点ありますが、そのうち館内には約1,200点を展示いたしております。1階には、祭り、歴史、古文書、市内から出土した土器などを展示しております。2階においては、加茂の産業の歴史に関連した建具の製造工程や木工の特産品、あるいは漢方薬の製造器具、加茂縞の機織り機、陣ヶ峰瓦、紙漉き用具などを展示しております。

ところで、加茂市では平成11年2月に、新しい加茂市史を編さんするための組織を発足いたしておりますが、古い建物を取り壊すなどの時に、昔の文書や本、写真などが出てくることが考えられます。その際は、是非資料館あるいは市役所内の市史編さん室までご一報頂ければ幸いです。その資料が、市史を編さんして行く中で貴重なものになる可能性がありますので、ご協力をお願いいたします。

どうか、皆様方におかれましては、今後ともお気軽に資料館をご利用頂きますようお願い申し上げます。



長徳寺（千葉県八日市場市）



圓長寺（千葉県野栄町）

長福寺の法脈を受け継ぐ寺々

長福寺とその法脈

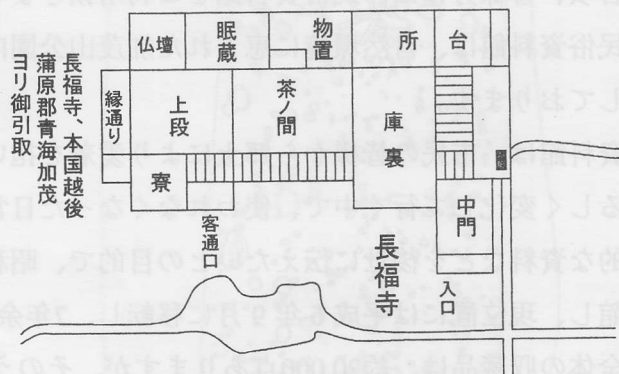
加茂市文化財調査審議会委員 関 正 平

大字下条の下条川の上流部に長福寺集落がある。この集落入口から右手に500mほど行くと、小さな地蔵の祠があり、その付近一体が長福寺遺跡である。今から四百年余り前の慶長3年(1598)までここに真言宗長福寺があった。

長福寺は上杉景勝の会津移封とともにこの地を去り、下条では廃寺となる。上杉氏に同道した長福寺は会津を経て米沢に移り、近世の約270年間、寺基を保っていた。米沢では上杉謙信を祀った御堂に勤仕する能化衆寺院の一つとして、米沢城内二の丸にその屋敷が与えられていた。このことは昨年9月開館の米沢市上杉博物館が所蔵する「文化8年御城下絵図」や常設展示されている「享和2年松岬城堞図」に示されている。なかでも後者の絵図には、長福寺が米沢へ来る前の出所地が具体的に次のように記されている。「長福寺、本国越後蒲原郡青海加茂ヨリ御引取」と。

長福寺、本国越後蒲原郡青海加茂ヨリ御引取

「享和二年松岬城堞図」にある長福寺部分
(米沢市上杉博物館所蔵) (模写図)



こうして米沢城の二の丸にあった長福寺も明治3年8月、米沢藩の神仏分離の政策を請けて、最後の住職道麟が置賜郡高豆蔻村(川西町)の善明院に移り廃寺となっている。

ところで長福寺の開山の僧については、すでに「金沢文庫古文書」第12集により、「越後賀茂長福寺開山長智」と、僧長智であることが知られている。またこれを裏付ける史料が、遠く千葉県八日市場市の長徳寺(真言宗智山派)で発見されている。これを知りえたのは加茂市の川口修策氏を通じて、同地に住む林秀三郎氏(加茂市上町の呉服屋、小池才次郎家出身)からの情報であった。この長徳寺(旧国郡名、下総国匝瑳郡横須賀村)には断片を含めて12点以上の加茂下条の長福寺に関する史料が保存されている。これらの一部については、拙稿「中世の寺、長福寺」(『加茂郷土誌』17号所収)に紹介してあるので参照されたい。

ここでは昨年11月にその長徳寺を訪問し、実際に見せて貰えた史料の一部や新たに圓長寺(長徳寺の隣町、野栄町)で見つかった関連史料を紹介したい。



「延文二年丁酉七月二十五日 講接院口決記之

金剛仏子長智 満七十才

康安元年辛丑正月晦日写之

金剛仏子長鏡 廿八才

応永廿一年甲午九月二日 於長福寺写之

金剛資 長乗 廿八才

文安四年丁卯十一月十日 於圓長寺書之

金剛資 長賢 廿才」

これは長徳寺に残る「三宝院灌頂大事」と裏端書された伝法灌頂の史料である。最初に書かれている金剛仏子（密教の僧侶の自称）長智は延文2年（1357）7月に根来の講接院（迎接院とも書く）にて口伝で伝法秘伝を満70歳で受けたことが記され、その弟子長鏡（28歳）が康安元年（1361）に伝法書を写し、のち圓長寺の第三住となる長乗が長福寺において応永21年（1414）にこれを写し、さらに法脈を受けた長賢が文安4年（1447）に圓長寺にてこれを書いたことが示されている。すなわち後述の野栄町の圓長寺第三住となる長乗の法脈が、根来の講接院の法脈を受継ぐ下条の長福寺の長智、長鏡に繋がるのがこの伝法灌頂文書によって分かってくる。

長福寺開山の長智の没年については、長徳寺の史料に「開山没去ノ時、如此貞治六年丁未二月一日」とあり、貞治6年（1367）であることが分かる。

また長鏡については、さらに右のような史料が断片であるが残る。末尾だけを示すとこれには、

「永和五年己未三月廿七日壬午註之

越後国青海庄長福寺

第三住 長鏡（花押）」とある。

これには具体的に長福寺の第三住として長鏡の名が出ており、前述の伝法書から推すと長鏡は46歳であることが分かる。

前述の圓長寺（真言宗智山派）は長徳寺から僅か3 kmほど南東にある。ここには幅32cm、長さ193.5 cmの「血脈」（卷子本）がある。表紙の題箋に「寛政九年（1797）に古くなって歴代を書き載せることが、出来なくなったので新しく書き写し修復した」旨のことが記されている。



ここには、圓長寺開山の長貴がほぼ末尾部分に書かれてあり、長貴に伝法した僧が長福寺第三住長鏡として出ている。さらに長鏡を遡ると、長福寺上人長智→講（迎）接院上人静助→覚濟→実賢→勝憲→実運→元海→定海→勝覚→義範→成尊→仁海→元杲→淳祐→観賢→聖宝と、醍醐寺の開祖聖宝にたどり着く。またこの「血脈」には、越後国加茂下条の長福寺開山が長智、第二住が圓鏡、第三住が長鏡であることも明記されている。

この圓長寺の「血脈」から長福寺の法脈は、根来の講接院から、さらには醍醐寺に繋がり、また長福寺の法脈が越後から遠くこの下総国匝瑳郡の圓長寺や長徳寺に伝法していたことを新たに教えてくれる。

これら法脈伝播がどのような理由で行われたのかは今後の調査を俟たなくてはならないが、圓長寺の「血脈」はその事実を結果として物語り、加茂下条の長福寺の古い歴史を知らせてくれる。

民俗資料館 平成13年度の歩み

1. 入館者数

平成13年4月

、

平成14年3月

	市内	市外	計	団体
大人	226	1,144	1,370名	5
小中学生	619	310	929名	17
計	845	1,454	2,299名	22

2. 資料収集の状況

本年度は11名の方から72件523点のご寄贈・複写の機会を賜りお礼を申し上げ紹介させていただきます。

〈寄贈品名〉

- ・会津桐下駄 ・松原瓦 ・箕 ・三本鍬 ・祭り提灯 ・算盤 ・食品収納ざる
- ・天秤ばかり ・提灯つり台 ・取っ手つきソリ ・1合升 ・5合升 ・おひつ
- ・二重鳥籠大、小 ・たばこ盆 ・建築関係図書 ・記念写真 ・アルバム
- ・明治、大正、昭和初期の農具、民具多数 ・二階堂保則氏自筆書類等
- ・鷲尾甚助に関する免許皆伝書、古文書の複写等 ・三光堂の蓄音機と片面レコード
- ・古屋敷遺跡、千刈遺跡採集の遺物 等々

〈寄贈者ご芳名〉

- ・岡田 倉吉氏 ・近藤 精二氏 ・松田 忠平氏 ・瀬高 ハル様
- ・泉田 マツ様 ・若木屋酒店様 ・中山 正夫氏 ・二階堂れい子様
- ・品田 靖氏 ・田代 太郎氏 ・伊藤 景昭氏

3. レファレンス・サービス及びアンケート調査（民俗資料館への問い合わせ）

レファレンス13件、 アンケート・調査18件

A レファレンス・サービス

- ・「加茂の青海神社と愛知の知立市の知立神社の関係について」
- ・加茂市内の「町名・小路名」の由来についてわかりますか。
- ・「駒岡屋質店のルーツについて知りたい」。
- ・「二階堂保則の遺品について」現存の確認
- ・資料館保存の「プロペラ」と「飛行機」について
- ・「新田義宗と自分の家のルーツとの関係を知りたい」
- ・「戊辰戦争時の戦死者の墓は加茂の何処の寺にあるのか」 ・その他

B アンケート・調査

- ・「平成12年度 市町村文化行政の現状」にかかわる調査 — 県教育委員会
- ・民俗文化財の県内所在調査 有形・無形民俗文化財物件 — 県教育庁
- ・新潟県福祉マップ作成のための調査・平成12年度博物館園活動調査 ・その他

4. 館 外 活 動

① 古文書講座

恒例の加茂市古文書講座受講者の皆さん、夜遅くまで熱心に受講されご苦労さまでした。

今年度より須田在住の文化財調査審議委員の丸山朝雄先生が講師として加わりました。

情熱的な先生方の講演にますますご期待ください。受講者延 215 名

○日時 平成13年 9月4日 9月11日 9月18日 9月25日 10月2日

各火曜日 午後7時～午後8時30分

○会場 加茂市民体育館内 公民館 第1研修室

○講師 加茂市文化財調査審議委員

関 正平氏 (2回) 溝口 敏磨氏 丸山 朝雄氏 長谷川昭一氏

※佐藤氏体調不良のため関氏が急遽カバー、ご苦労さまでした。(感謝)

○内容 共通テーマ「江戸時代の暮らし」

第1回 関 正 平 氏

「古文書に見る女性たち」

- ・加茂新田清七、孫平次宛娘嫁婚礼持参金請取覚 金五両
- ・長右衛門娘とい、孝行により褒章。郡奉行より 米五俵
- ・前須田村三九郎母、九十歳以上長寿褒章 米二俵 その他

第2回 溝 口 敏 磨 氏

「戊辰戦争下の民衆の免租」

- ・品物の代金について書附を以てお尋ね申し上げ。
- ・諸家様、御休泊・人馬賃その他を新発田の会計様より払下げ相なり書附を以てお届け。

第3回 関 正 平 氏

「北潟村の開発について」

- ・小林家文書北潟村免相のこと ・北潟村年貢皆済状 ・北潟村田畠高指出シ
- ・茅刈場をめぐる境取決め書、北潟村・後須田村境取決め書 ・北潟村開発免状

第4回 丸 山 朝 雄 氏

「後須田名主一紀州大納言様拝謁の記」

- ・名主小林八十八が紀州より帰国後、書状での報告記・「紀歴車(?)」を紀州大納言に献上する様子とその道中記。

第5回 長谷川 昭 一 氏

「鉛山文書を読む」

- ・宮寄上柴倉沢鉛山売却証文
- ・坑夫採用に付き誓約書。
- ・宮寄上戸沢鉛山試掘届け ・鉛山用飯米払下げ願い書
- ・運上鉛預かり状 ・鉛山飯米代金延納請書



丸 山 朝 雄 氏

② 歴史講演会

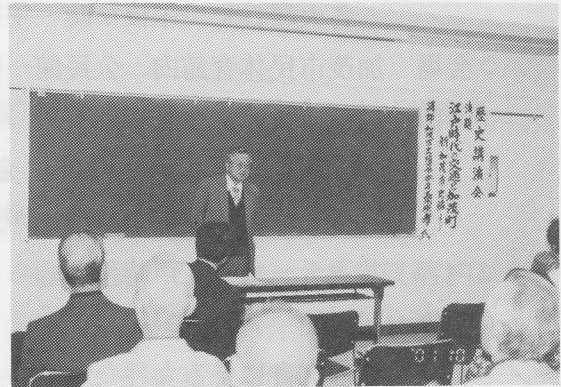
前年、突如御都合が悪くなり、お出でになれなくなり誠に残念に思っていたところ一年後になりましたが、ご都合をつけて湯沢町より講演のためお出でいただきました。

受講者 44名

- 日 時 10月27日(土) 午後2時～午後4時
- 会 場 加茂市民体育館内 公民館 第1研修室
- 講 師 加茂市史編集委員 桑原 孝氏
- 演 題 「江戸時代の交通と加茂の町」

(要旨) — 新・加茂市史編集から —

- ・越後の街道は脇街道 ・街道筋に置かれた宿場 ・近世の街道の特徴
- ・加茂宿に見られる大人数の通行
(幕府役人、巡検使、新発田藩主、村上藩主、村松藩主)
- ・加茂宿の構成 ・本陣と旅籠屋
- ・伝馬役と助郷 ・明治天皇御巡行記録



桑 原 孝 氏

③ 特別歴史講演会

大変ご多忙にもかかわらず快よく講演を引き受けていただき深く感謝しております。

お彼岸の中日ながら、熱心な市民が聞きに来られ、市民も気づかない加茂の文化財の解説に、歴史の重さ・大切さを再認識させられた思いでした。

受講生 48名

- 日 時 14年3月21日(木) 午後2時～午後4時
- 会 場 加茂市文化会館 小ホール
- 講 師 上越教育大学 助教授 川村 知行氏
- 演 題 「文化財から歴史を読む」— 文化財より見た加茂市の歴史と宗教景観 —

(要旨) ・越後の宗教景観 (真宗王国、天台宗、真言宗、時宗)

- ・加茂市の文化財
 - 西光寺—上条 時宗「阿弥陀如来立像」鎌倉時代後期
 - 地藏院—後須田 真言宗高野山派
 - 「大日如来座像」平安時代前期10世紀
 - 双壁寺—若宮町 曹洞宗 元は真言宗で開基は上杉謙信
 - 「元三大師座像」 鎌倉時代後期
 - 天台宗延暦寺中興の良源
 - 「多聞天立像」「増長天立像」鎌倉時代末期
 - 金泉寺—狭口 新義真言宗智山派
 - 「絹本著色両界曼荼羅」 二鋪
 - 金剛界—胎藏界 鎌倉時代末期14世紀



川 村 知 行 氏

・文化財から歴史と宗教風土を読むことができる。

加茂市の遺跡 平成13年遺跡発掘調査について

加茂市教育委員会社会教育課主査 伊藤 秀 和

本年の発掘調査は昨年に引き続いて、下条地内の中沢遺跡を対象として行われた。奈良・平安時代と弥生時代の集落跡の一端が明らかとなった。

中沢遺跡—弥生・奈良・平安—

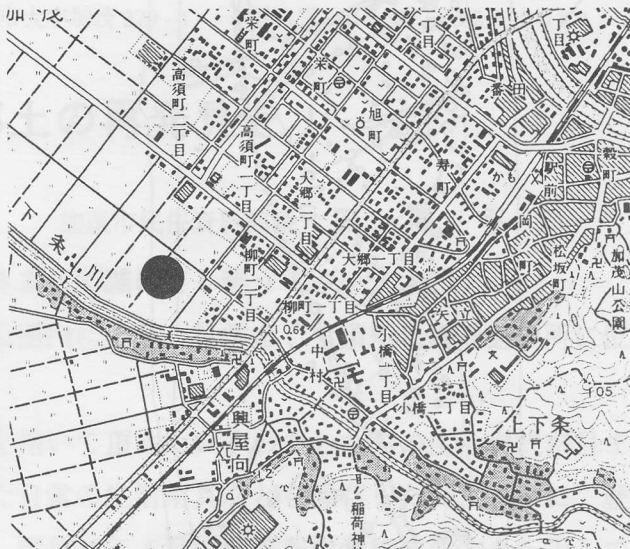
所在地 加茂市大字下条字芝野地内

調査面積 約560m²

調査期間 平成13年10月15日～11月29日

調査原因 下条陣ヶ峰線道路建設工事

調査の概要 調査区は昨年調査区の南西側にあたる。上層面では2間×5間以上と見られる大型の掘立柱建物跡が注目される。柱穴はほぼ方形を呈し、主軸は南北を向く。出土した土器から奈良時代と見られる。平成12年調査区と合わせると合計6棟の建物跡が確認されており、主軸の向きは全て南北を指向するが、概ね二つのグループに分かれる。下層面ではいくつかのピットが検出されたのみで、遺跡の外れに近いところと推測される。ただ、写真にあるように甕形土器がほぼ完全な形で出土した。



中沢遺跡位置図 S=1/25,000

以上、2ヶ年かけて調査された中沢遺跡からは全体図面で明らかのように、それぞれ活発な活動痕跡が明らかとなった。特に、奈良・平安時代の遺構では掘り方が方形に近く大型の部類を含む掘立柱建物跡で構成される集落景観が注目される。近距離にある9世紀中頃の鬼倉遺跡及び下条川を挟んだ馬越遺跡の調査成果との比較検討により古代蒲原郡青海郷の実像が明らかになるものと期待される。弥生時代の遺構からは明確な住居の跡は検出されなかったが、多数の柱穴と見られるピットや多量の土器の出土から、集落跡と考えられる。出土した土器は弥生時代後期後半、北陸系統の法仏式で、まとまった良好な資料である。

以上、2ヶ年かけて調査された中沢遺跡からは全体図面で明らかのように、それぞれ活発な活動痕跡が明らかとなった。特に、奈良・平安時代の遺構では掘り方が方形に近く大型の部類を含む掘立柱建物跡で構成される集落景観が注目される。近距離にある9世紀中頃の鬼倉遺跡及び下条川を挟んだ馬越遺跡の調査成果との比較検討により古代蒲原郡青海郷の実像が明らかになるものと期待される。弥生時代の遺構からは明確な住居の跡は検出されなかったが、多数の柱穴と見られるピットや多量の土器の出土から、集落跡と考えられる。出土した土器は弥生時代後期後半、北陸系統の法仏式で、まとまった良好な資料である。

発掘された資料は膨大であるが、2～3世紀及び8～10世紀の活動痕跡を読み解き、平野部

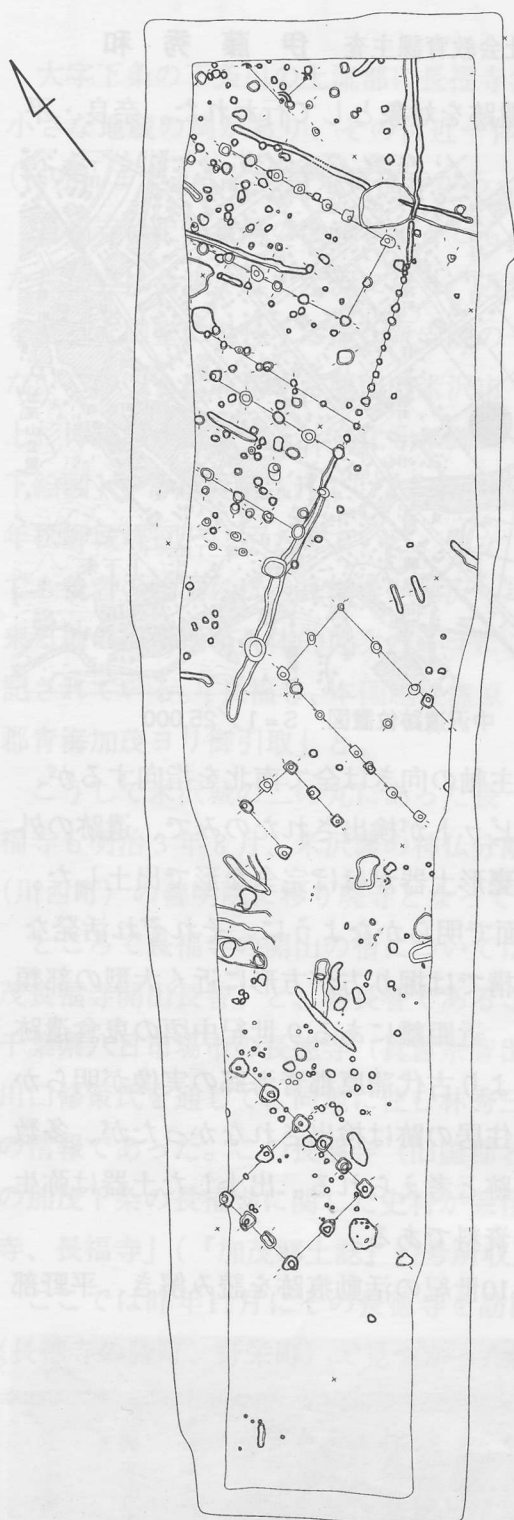


中沢遺跡上層 掘立柱建物跡

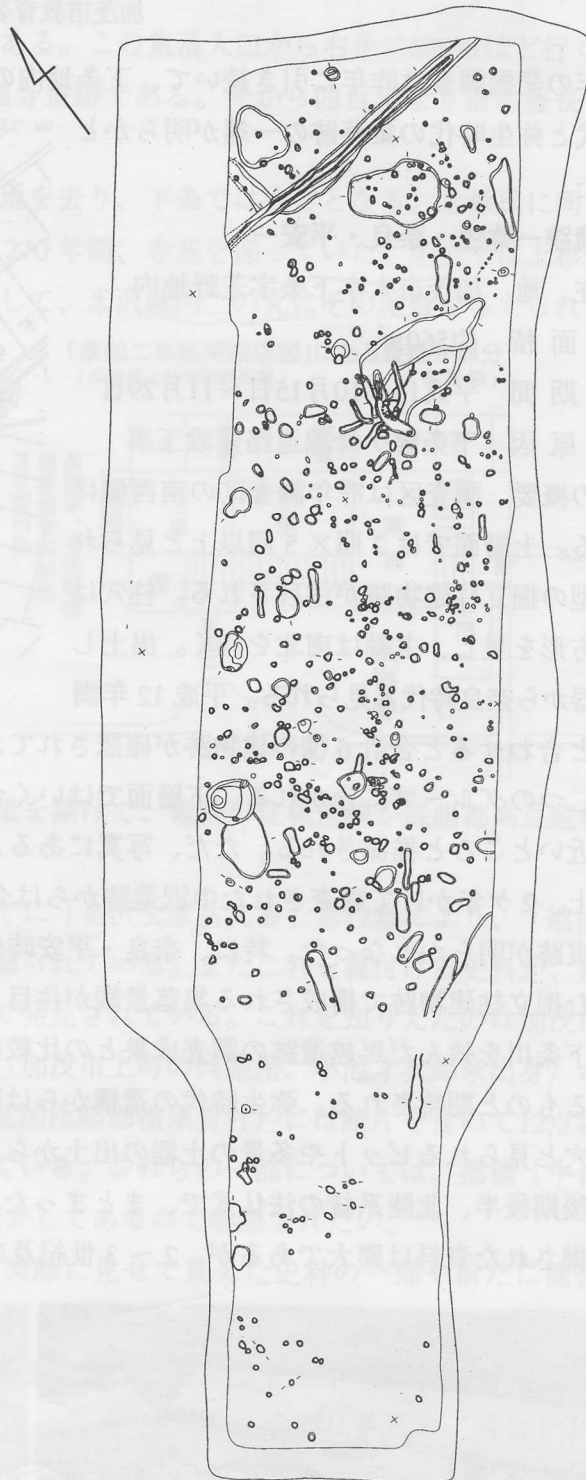


中沢遺跡下層 遺物出土状況

の開発史を明らかにすること、自然科学分野の力を借りて、上層と下層間の約1mの堆積土の由来を明らかにすることなど、研究課題は多く、今後の整理調査・分析の進展が期待される。



上層遺構全体図 (S=1/400)



下層遺構全体図 (S=1/300)

編集後記

初夏を思わせる今日この頃の陽気に戸惑いを感じられますが、例年より1・2週間春の訪れの早かった加茂山公園にも多くの人影が見られるようになりました。

第9号発刊に際してこの度、加茂市史編纂室に入られ御多忙の折りにもかかわらず玉稿をお寄せいただいた関正平氏（文化財調査審議会委員）に感謝申し上げます。

今後とも皆様方のご支援・ご協力をお願いいたします。